

高崎中部名店街

(商店街振興組合高崎中部名店街)

群馬県高崎市

！取組のポイント

来街者のニーズを的確に把握し、地域の様々な団体や学校との幅広い連携をすることで、年間を通じて数多くの記憶に残るイベントを開催。

取組の背景

回遊性の高いまちづくりを課題と設定

高崎駅周辺や街なかにマンションの建設が進み、居住人口の増加が見込まれていた中、高崎駅西口に2017年秋の開業を予定とする大型商業施設の建設が決まった。これまで商店街では、中心市街地に通行量を増やすべく様々な取組を行ってきたが、これをさらなる好機として捉え、大型商業施設に集まる1日3万人の客足をいかにして商店街にまで伸ばさせるか、その方策を探るべく、2013年に国の補助事業を活用し、商店街に対する消費者ニーズ調査を実施した。

その結果、魅力ある店舗、興味のある通りでは「人が散策する」ということが判明。そこで、居住人口の増加を見据え、子育てしやすい街、若いファミリーが住みたい街、散策したい街の実現を念頭に、回遊性の高いまちづくりを課題と設定した。

取組の内容

消費者ニーズに合わせたイベントを実施

こうした消費者ニーズに応えるため、歩行者天国となる街区の一部(さやもーる)にかぶと虫を放し、子どもたちが虫取りをする「かぶと虫出没注意」、新成人が晴れ着姿でレッドカーペットを歩くとともにプロカメラマンが記念撮影を行う「街なか成人式」、ギネス記録を達成したこともある「100mロールケーキ」など、年間を通じて親子で楽しめるイベントを開催している。

かぶと虫出没注意



街なか成人式



また、地元大学生が企画運営する「熱血！高校生販売甲子園」に協力。商店街や企業、行政がサポートし、第8回(2015年実施)は全国から参加校が集まるイベントにまで発展した。

さらに、毎週日曜日の「朝市」では生産者による新鮮野菜の販売に場所を提供。2009年8月から始めた「高崎昼市」は、現在も毎月第3日曜日に開催され、高崎近隣地区生産者や飲食店が農産物や加工品、オリジナルメニューを販売し、多くの人出で賑わっている。

その他、群馬県中小企業団体中央会の助成事業を活用し、スマートフォン用ホームページを作成。商店街イベント情報や組合員店舗のお知らせ、おすすめ品、道案内などを掲載し、情報の発信・提供を行っている。

取組の成果

イベント開催ごとに参加者が増加

2011年から始めた「かぶと虫出没注意」は、現在までに5回開催している。開催ごとに参加者が増え、3世代が集う賑やかなイベントに成長している。運営スタッフには商店街のほか地元大学生中心のNPOが加わり「地域交流の場」としての商店街の役割を地域住民に大きくPRすることができている。

また、「熱血！高校生販売甲子園」に参加した高校生は、その後、次は応援する側に回りたいと地元大学への進学を目指すなど、イベント参加を通じて地域活動に興味を持ち、地元との関わりを深める若者も増えている。

今後もイベントを核に、多世代交流を促進し、地域社会を支える「生活街」としての商店街の役割をPRし、地域住民から必要とされる商店街を再構築していく方針である。

熱血！高校生販売甲子園



実施体制

「かぶと虫出没注意」、「街なか成人式」の開催にあたっては、商店街青年部やNPOが事業運営全般にわたり、中核的な役割を果たしている。

また、「熱血！高校生販売甲子園」の開催には、高崎市をはじめ高崎商工会議所、青年会議所、地域活性化団体など幅広い団体から協力を得たことで、強固な連携関係が生まれ、継続的な実施に向けての体制が整っている。第4回からは主催を商店街から地元大学生で構成される実行委員会へ移したが、商店街は全面的な協力体制を整えている。

「高崎昼市」は、商店街と地元大学生が企画運営の中心となり開催している。

その他、スマートフォン用ホームページはスマートフォンからのメンテナンスが可能であるため、サイトの更新を各店舗で簡単にこなせるようになっている。また、駐車券の取扱いや組合事務所内の会議室貸出しなどで自主財源の確保に努めている。

基本データ

所在地	群馬県高崎市鞆町
人口	約38万人(高崎市)
電話/FAX	027-322-4229
関連URL	http://www.takasakinow.com/tubu/index.php
会員数	74名
店舗数	74店舗(買回り品小売店25、最寄品小売店3、飲食店17、サービス店15、その他14)
商店街の類型	広域型商店街
主な客層	家族連れ、主婦、会社員

キーパーソンからのコメント

商店街振興組合
高崎中部名店街

左：理事長 西澤 彰
右：前理事長 友光 勇一



若者の意見を商店街に

当初はイベント開催時の人手不足を補うために学生との協力関係を築きましたが、若者の斬新なアイデアにより様々な企画が生まれました。

しかし、イベント数が増えるに従って、イベント成功のみを目指す学生達と本来の街の活性化を目的とする商店街との間に意見の相違が見えるようになりました。

イベント開催中のにぎわいに比べ、日常の来街者の少なさが目立つようになっている現状を変えるべく、学生と商店街のそれぞれの思いが商店街の活性化につながるよう、両方で話し合いを重ねています。

居心地の良い商店街へ

現在は地元大学との連携が多いのですが、今後は県内の他の大学及び高校へと範囲を広げ、若者が活躍できる場所として商店街の活用を進めていきたいと考えています。

さらに、子どもから高齢者まで誰もが安心して商店街を利用できるよう、警察や消防、企業との連携を強め、防犯・防災に力を入れることで、居心地の良い商店街にすることが目標です。

街で活躍した学生が卒業して県外へ就職しても、高崎を第2の故郷として、家族とともに気軽に足を運んでももらえたら嬉しいですね。

商店街概要

高崎中部名店街は、環境整備などのまちづくりを進めるべく1958年4月に組合として設立。さやもーる、さくらばし通り、大手前の3つの街区から構成されるH型商店街である。さやもーるは、緑のあるカラー舗装の美しいショッピングモールとして市民から親しまれている。イベントも各種工夫を凝らしており、えびす講時に最高潮に達する。地元大学生が街区内にカフェをオープンさせるなど、商店街活動に積極的に参加している。また、行政とも連携を密にし、全国初の性風俗営業の建物を規制する都市計画「鞆町周辺地区計画」に指定されるなど、こだわりのまちづくりに取り組んでいる。